

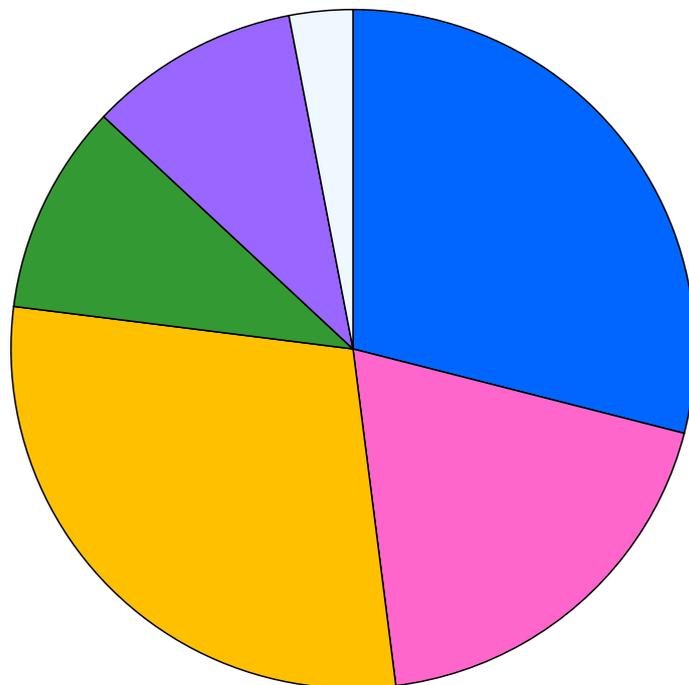
プログラム名 第4回 デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～
石井美恵子さん

単元名 RA

アンケートタイトル 第4回 デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～
石井美恵子さん

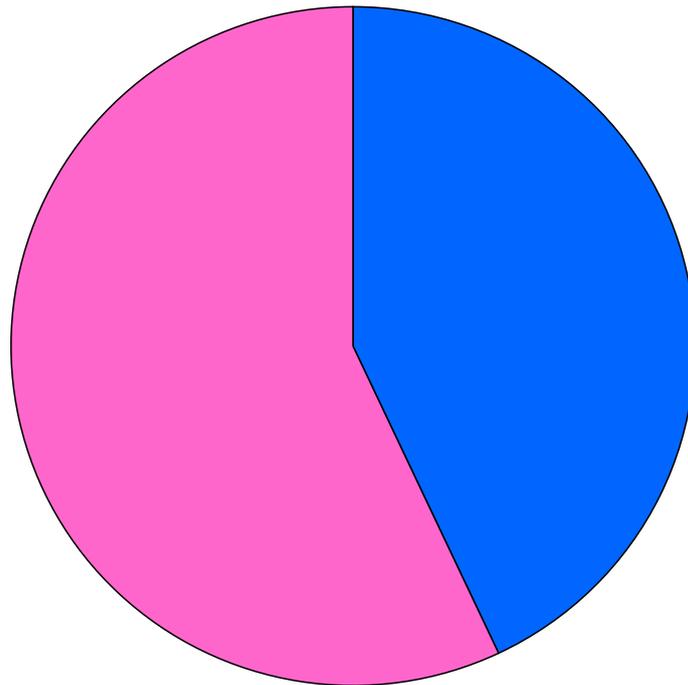
質問1 本プログラムを同僚や友人など身近な人におすすめしたいと思いますか。1
1段階でお答えください（10＝必ず勧める ～ 0＝勧めない）（択一式）

No	解答	人数	%
1	10＝必ず勧める	6	29%
2	9	4	19%
3	8	6	29%
4	7	2	10%
5	6	2	10%
6	5＝どちらでもない	1	5%
7	4	0	0%
8	3	0	0%
9	2	0	0%
10	1	0	0%
11	0＝勧めない	0	0%
合計		21	



質問2 「災害大国日本で考える、人権と尊厳」にご参加いただき、皆さまの生き方や働き方の参考になりましたか。（択一式）

No	解答	人数	%
1	大変参考になった	9	43%
2	参考になった	12	57%
3	どちらでもない	0	0%
4	あまり参考にならなかった	0	0%
5	参考にならなかった	0	0%
合計		21	



質問3 本プログラムを通して、気付いたこと、これからご自身で実践したいと思ったことはありますか。
小さなことでも構いませんので、ぜひお聞かせください。（自由記述）

【自由記述】

- ・ 防災関連の業務をしているので、避難所の人権について勉強になりました。
- ・ 水の確保か遠方避難方法の検討
- ・ もう一度、ちゃんと考えてみようと思いました。
- ・ 人権、尊厳について、あらためて考えさせられました。
- ・ 災害対策基本法の対象が国土並びに国民の生命・・・国土が先！ 目的は社会の秩序の維持とはびっくり仰天でした。そもそもここから変えていかないといけないのではなかろうか？以前、ニュースでソフィアのことを知り、日本の避難所との差にびっくり仰天しました。なんだかいい加減だと思っていたイタリア人ですが、イタリア政府の防災対策はまさに個人の尊厳を基本としているのですね。キッチンカーとかトイレ車とか、日本でも作ろうと思えば作れるのではなかろうか？そうすると、贅沢！という話になるのだろうか？ 我慢＝美德ではない、何のための税金、いや何のための国家なのかを考えてみたいです。
- ・ 確かに日本では、多くの場面で政治の話をするのはタブーな感じがしている。「政治は生活だ」という認識がなかなか馴染まないのだが、そんなことではいけないのだと反省した。
- ・ 日本の災害時救済の至らなさがよくわかりました。仕事柄防災無線関連の仕事に携わっていますが、もっと役所の方と本気で話をする機会を持たないとダメだなーと痛感しました。災害は経験しないとわかりませんが、その準備が大切だと思います。
- ・ 首都圏直下型への更なる対応力強化
- ・ もしも自分が被災した時、家族が被災した時、安心して避難生活を送れる環境を整備してもらうためにも、より政治に興味を持ち、積極的に動いてくれる人を選び出さなければならぬと感じました。アメリカのようなトレーラーハウスは、狭い日本では難しいでしょうが、ああいったプライバシーを守れる空間が提供されるのは素晴らしいと思います。（あれで狭いというアメリカ人っていかがなのでしょう…）
- ・ 先ずは、防災に対する考えを見直して、できることをやっておくことが大切だと思います。そして、自分の身は自分で守るということをお大前提としていきたいと思ひます。
- ・ 人権は今の日本(政治)では、これから先も守ってくれないと言うがわかりました(日本人の考え方を必要がある)明日、災害が来るかもしれないという状態なので、出来る限り災害時の備蓄等を自身ですべきと考えました また、自宅からの避難場所は判っているのですが、災害時の受け入れがどういう状態なのか調べてみようと思ひました
- ・ 災害における人権と尊厳としたテーマであったが、内容としては一般人への学びだけでなく、行政側への提言としてのテーマが濃く、又、重要な提言や学びがあった。この

ような視点の講義は面白く、多くの方(特に国・行政側)に見てもらいたいと思ったタイトルをわかりやすくセンセーショナルにはしてはいかがですか

・私自身も障がい者なので災害医療については大変関心がありました。

・大変勉強になりました。石井先生のご意見は災害に限らず日本と日本人が変わらなければならないのに変われずにきた本質的な問題だと思います。非力ながらできることをやりたいと気を引き締めました。

・オンライン参加でしたが会場にいるような感じで参加できよかったです。

・自助、共助、公助は、人権を阻害していないか？は、じっくり考えてみたいと思います。

・日本の避難所において、プライバシーのなさ、尊厳を守るための設備のなさを実感することができました。ただ、質問でも書きましたが、その人権・尊厳確保の声を上げることは非常に困難だと思います。逆に、現状ではそこで声をあげた人はバッシングを受けてしまうのではないのでしょうか。かといって、ボランティアに頼るのも違うと思いませんし。難しい問題だと思います。

・日本人が「尊厳」「人権」を主張しない理由を自分なりに考えてみました。

①：日本人は昔から“お上にやっていただく”“お上のやることは正しい”(お上…かつては「大名」「天皇’)という意識が深層心理に地味に残っているのではないかと思う。災害発生直後は「尊厳」「人権」よりも「安全」が最優先になるのが当然だが、ある程度「安全」が確保できたら次は「健康」ということになり「尊厳」「人権」という平時に守られるべきこの2つまで考えが回らないのだろう。しかし、今日のお話で「尊厳」「人権」を守ることが「健康」つながることがわかりました。②被災地で被災者の世話をする方々(少なくとも被災者への一時対応)も“同じく被災者”であるから。だから多少のことは我慢しなければ・・・という意識になるのだと思う。災害発生から10日間くらいしたら被災者のニーズも変わり対応・支援も次のフェーズに移るのでなるべく早い段階で、「被災者が被災者のお世話をする体制」をやめなければいけないと思う。災害対応専門チームFEMAのような組織が日本にもでき、その組織が中央だけでなく各県まで下部組織として整備されることが望ましいのだろう。でも、今の日本でこの組織を作った場合、県職員、市町村職員が兼務するということになり全く意味がなくなるような気がします。東日本大震災で開業医の方の話を知ったときに非常に印象的だったのは、「被災した方々の為に医者としてやれることは最大限対応しようとは思いますが“私も家族を亡くした被災者であることも少しはわかってほしい”という言葉でした。

・質問の趣旨とは異なると思われるが、触発されて実践するという意味では、プログラムで日本が比較劣位になっている事象について、適切な比較であるのか検証したくなった。例えば、避難所の準備が優れている国の事例と日本の惨状が比較されていたが、大災害時の他国の避難所実態ではなく準備状況と日本の災害時の状況の比較だった。また、人口や政治体制が大きく異なる国同士の比較も補正されていたのか気になる。デジタル化先進国の特徴として、国の規模によって進めやすい環境にあったという指摘もあるので、同様に比較は難しいし、比較するなら補正も必要。自身で実践したいと思ったこととして、本プロジェクトで紹介された比較が適切だったか考えたい、また自身の今後の仕事においても比較には慎重な姿勢を心掛けたいと思った。

・30年以内に大災害が起こるといわれてだいぶ経ちますが、備えなくちゃと思いつつもいまだにどこか他人事に思っていたこともあって、身が引き締まる思いがしました。とりあえずは食べ物と水の備蓄から始めようと思います。

・お話を聴きながら、防災士の一人として、もっと私たち防災士が地域住民として行政と連携しながら機動的に活動できたら（行政のみでは自ずと限界があります）と半ば反省をしつつ感じました。

質問4 全体を通してのご感想やご意見、今後の開催に向けてのご要望等ございましたら、ぜひお聞かせください。（自由記述）

【自由記述】

- ・人権について改めて考えさせられました。
果たして現在、サラリーマンの人権はあるのでしょうか？
- ・大変に考え深い話題であつという間に時間になりました 有難うございました
- ・災害時の人権とかは考えたことがありませんでした。良い気づきとなったと思います。ちゃんと考えていきたいと思います。
- ・財政難で苦しんだイタリアの方が被災時の対応が進んでいることに驚いた。
- ・とても良い企画でした。石井さんが理想とする姿にはどの位のエネルギーと時間がかかるのでしょうか。投票率のことをおっしゃっていましたが、リーダーが変わればスピードアップするのでしょうか。。。生き残る対応は、まずは「自助」に加え「近助」の強化だと、改めて思いました。有難うございました。
- ・先生のお話にもっと時間をさいていただきたかった。30分という制限があるためか、先生の話すスピードが速く、スライドをじっくり見ようとすると 次のスライドにいつてしまうのが残念でした。後半の伊庭野さんとのクロストークではなく、先生に1時間話していただき、そのお話の途中で伊庭野さん、司会の佐々木さんが絡むというのが見やすいかと思います。
- ・あつという間で、もう少しお話を聞いていたかったです。関係者の意見として、あまり深掘りせずにサラッとやるのも良いと感じました。
- ・日本が海外に比べて人権に関しての意識が低いのが分かりました、今後、変化や動きがあれば教えて頂きたいです
- ・今回の寺子屋の講師の方は実際の災害経験の中のエキスパートとして、現在の日本国の弱点や風土の違いより、世界的な視点でとらえ説明がよかった。行政が行う講義の場合、仕組みの説明や運用でおわってしまい、異なる視点で学べた good!!!
- ・お話しの中味に関してではありませんが、47枚のスライドを30分ちょうどで無駄な言葉が一切なく澁みなく話される石井先生に脱帽です。繰り返された努力の賜物だと思います。テストで100点取って、良い大学をいい成績で出たエリートが何故かできないのです。相手が納得する話しが、何故でしょう？
- ・お話がわかりやすく、資料も見やすかったです。
- ・テーマに興味をもって聴講している立場から考えると、時間的に講義内容が中途半端の感じがしました。質問も形を整えることが先行している感じで、対面とオンラインを併用したセミナーとしては止む得ないことかも知れませんが、工夫の余地がある様に感じました。DXを先導する「デジタルTERA小屋」が、その使命を果たしますことを期待しています。
- ・口座の時間が1時間15分というのは、適切な時間だと思います。ただ、開始が18時は早いように思いました。また、客席に関係者が多く見受けられましたので、一般客への周知、動員が課題だと思います。

・ヨーロッパ、アメリカのやり方をすべて真似すればよいというわけではなく、良いところを取り込む、という意識が必要だと思う。思想・哲学も違うので・・・さらにいえば、日本の中でも都会と田舎の災害対応（避難所）は同じではないと思う。いい悪いは別として極端に言えばド田舎は玄関に鍵がかかってなくて、近所の人が勝手に家の中にはいってる・・・なんてことも。都会ほどプライバシーを求めないのかもしれない？逆に、公民館で近所の人と一緒にいた方が精神的に良い。ということも、もしかしたらあるんじゃないだろうか？日本はどんな都会や田舎にも「お寺」「神社」があるのでこういった場所を有効利用できないのだろうか？昔の日本人は精神の拠り所として「お寺」や「神社」があり文化の中心として「学校」があった。日本の避難所には哲学がない！みたいな話もあったのでこのように思った。あと、トイレの汚さの話もあったが、トイレが汚いというのは本当に辛い！！個人的に公衆トイレの汚さは人並み以上にかなり許容できるのだが、30年ほど前にネパールの国内線飛行場のトイレに入った時の汚さは衝撃的で気持ちが萎えた。今、日本に来る外国人が感動するのが日本のトイレの綺麗さです。場所によっては公衆トイレにまでウォシュレットがあることに驚くという。被災地にそこまで求めないが気持ちよく排便できる事は精神面・健康面ともに大切。プライバシーより「水」「トイレ」が重要だ。これは優先順位つけるものではなく、どれも大切と思うが被災現場で限られたリソースで優先順位をつけるのはある意味当然なことだろう。 だらだらと、まとまりなく思ったことを書いてしまいましたが、普段こんなことを考えるきっかけがないので、今回はよいきっかけをいただきました。ありがとうございました。

・もう少し人権とのかかわりにスポットが当たってほしかったが、短い時間の中で大変うまくまとめていたと思う。

・興味深い内容で、あっという間に過ぎていました
動画が公開された際は時間を見つけてもう一度見たいと思います。